

いなかのりんじん

あぐろばいんとーん

編集：九州教区教会協力委員会

「棚田のような」

教会協力委員会委員長
深澤奨（佐世保教会）

九州には棚田がいっぱい

全国棚田100選というのがありまして、100選と言いながら全国134の美しい棚田が認定されています。そのうち6つが長崎県にあります。実は長崎県のみならず九州全体が棚田の宝庫で、100選の134のうち47、実に全国の3分の1以上が九州の7県に存在しているのです。なぜこんなにも多いのか？困難な場所で、貧しさと闘い、与えられたものを最大限に用いようとしてきた歴史が、その積み重ねが多くの棚田を生み出したのでしょうか。何か無性にシンパシーを感じてしまいます。こうなると見て回るよりありません。

過日、車で走り回って佐賀、長崎の100選に選ばれた12の棚田のうち6箇所を訪ねました。いずれも壮観。小さな田んぼが何百枚と折り重なる光景は、美しさの背後に先人たちの労苦の跡がにじんで見えてくるようで、深い感慨を覚えます。佐賀県相知町の蕨野の棚田は圧巻でした。1000枚以上の田んぼが険しい山肌にびっしりと積み重なり、最も高い石積みは8.5mで、日本一の高さだといえます。この石積みの上に一枚の田んぼを築くのに10年かかったとのこと。溜め息が出ます。

しかしこの宝物のような光景が、今や存亡の危機に立たされています。既に40%の棚田が失われていますが、今後はさらに農村の過疎、高齢化、後継者不足によって、さらには政府の推し進めるTPP交渉の行方次第では経済効率に劣る中山間地の棚田はどこも立ち

ゆかなくなるでしょう。でもそれでほんとはいいのでしょうか。先人たちが困難な土地で、しかしその土地を愛して努力と工夫を重ねて、一枚一枚築き上げ、積み上げてきた棚田は、経済効率だけでは計り知れない価値を持っているというのに。

棚田ってすごい

棚田の意義については様々な側面から指摘されています。まず棚田は「小さな治水ダム」の集まりでもあり、山の保水力を高め、水源の涵養、水害の防止に寄与します。絶滅が危惧されるハッチョウトンボやコオイムシ、ゲンゴロウ、タガメ、ドジョウ、様々なカエルなどが中山間地の棚田にはまだ豊富に残っていて、地域の様々な生き物が共に生きる「生物多様性」を棚田は生み出します。こうした棚田の公共的な意義と価値は、棚田米のおいしさに凝縮されます。

山に降り注ぎしみ込んだそのままの水を引いて育てられた棚田米は、生活排水や工業廃水の混じった使い古しの水で育った平坦地のお米とは、やはり味も栄養も随分違ってくるのでしょうか。山間地の朝晩の温度差が味に影響するともいいます。多様な生物が生きる生態系の豊かさもちろん味を引き立てるでしょう。何より先人が苦労を重ねて築いてきた田んぼで育ったことを思うだけで、気持ちの上でも美味しく感じるのかも知れません。

棚田のような教会

わたしは九州にたくさんある棚田を思うとき、九州教区の諸教会を思い浮かべます。先人たちは困難な土地で、しかしその土地を愛して、苦労と工夫を重ねて教会を築いてきました。それこそ一枚一枚棚田を重ねるように、伝道の業を積み重ねてきました。

効率優先、経済優先の視点で行けば、田舎

の小規模教会など無理に維持しても意味がないということになるのでしょうか。教団の中枢からは、地方の小規模教会を現状維持的に支えるのはもうやめて、これからは教勢がのびる見込みのある教会に集中的に資金を投下すべきだといった声も漏れ聞こえます。

でもね、経済効率では計り知れない意義と価値が柵田にはあるのと同じように、地方の小さな貧しい教会にも計り知れぬ意義と価値があるのだと私は思うのです。柵田米が美味しいように、柵田のような教会で育ったキリスト者のえもいわれぬ味わいを私はこれまで

何度も味わわせていただきました。

柵田が失われてはならないように、「柵田のような教会」も失われてはならないのです。困難な場所で、しかしその場所を愛して、先人が苦勞に苦勞を重ねて築いてきた柵田のような教会。地域の環境に寄与し、地域の生物多様性をもたらす柵田のような教会。少量だけど美味しいお米を実らせる柵田のような教会。それを失ってはならない。それを保ち、その豊かさ、おいしさを分かち合うのが教区と教会協力委員会の、それに連なる皆さんの大事な務めだと思うのです。

教区三役から

「教区互助に寄せる思い」第1弾

<あなた>なしでは、生きてゆけない

教区総会書記 新堀真之（香椎教会）

以下は、最近読んだ本の中で、グッときた言葉の数々である。教区の互助とは関係ない？ まあそう言わずに…

◆ 自立について

平川克美：「自分一人では何もできないことがわかった時が、自立なんでしょうね。」

鷲田清一：「自立というのは、いざとなったらインターディペンデンス（相互扶助）の仕組みをいつでも使える状態にあることだと思う。いざとなったら互いに助け合えるようなネットワークを、きちんと用意できているのが本当の意味での成熟、一人前ということじゃないかな。」

（平川克美『移行期的混乱』筑摩書房）

◆ 「成熟」について

「たぶん、ほとんどの人は逆に考えていると思うけれど、『その人がいなくては生きてはゆけない人間』の数の多さこそが、『成熟』の指標なのである。」（内田樹『ひとりでは生きられないのも芸のうち』文芸春秋）

別にコムズカシイことではない。書かれていることはただ一つ。「<互助・相互扶助>が大切である」、たったそれだけのことだ。いつ

ものように近所を練り歩き、そこで誰かと出会い、くだらない冗談に腹を抱えて笑い、一緒に何かを憂う。人間は本来、そんな肌触りのある関係性に生かされた存在である。「あなたなしでは、生きていけない」、そんな<あなた>とのつながりこそが支えとなると、これら論者は一様に語るのである。

こと「教会／教界」として、同じだろう。経済効率のみを重視し、他者を忘れ、おのれが生き残ることだけに汲々として動いたとき、教会もきっと、大切な何かを失うことになる。

ましてや、

「小規模教会を支えるのは限界だ。」

「これからは、数の増加が見込める“中核・拠点教会”のみを重点的に支援する」なんて…寂しいどころか、それは極めて「未熟な生き方」でしかない。

「教勢低下」が叫ばれる教団の中で、それでも「全体」を下支えしてきたのは、地方の小規模教会である。置かれた地域に根を張り、そこに血の通った交わりを生み出し、けれども社会の人口移動の中で、「苗床教会」として都市部に人を送り続けねばならない、一つ一つの教会・伝道所の働きを、決して忘れてはならないだろう。

幸いにも九州には、<あなた>がたくさんいる。「小規模」だからこそ作り出せる、あたたかい分かち合いの業があることを、私たちは知っている。そんな一つ一つ、一人一人の<あなた>を覚え、支え合いながら歩いていきたいと願うのです。

各地区互助推進担当者からのメッセージ わかつとらすならせんば!

筑後地区・梅崎啓子
(大牟田正山町教会)

筑後地区は福岡県の南部、九州の穀倉筑紫平野の東半分に位置します。米・麦の二毛作に有明海の恵み、伝統工芸も盛んな豊かな地域です。けれどもやはり人口減少と高齢化は九州教区の他の地区と同様、7教会の直面する問題です。

筑後地区にはここ数年、教師の移動が続き無牧を経験する教会も出ました。2013年に入り筑後福島教会と瀬高教会が二つの教会で一人の教師を招くことがかない、7つの教会・6名の教師の形に至りました。近隣の教会に先生がいない状態は、地区の信徒にとっては心配なことです。私達は地区行事で集まる度に近隣教会の動静に注目し、礼拝を守る苦勞を思いやる会話を交わしました。代務の先生

の忙しさも、先生を送り出す教会の様々な配慮も想像し、「どげしとらすと？」と。

私は互助推進担当として、年度頭初の地区総会で互助献金のアピールをし、各教会に献金袋を配布しています。教区教会互助献金は筑後地区の発案と云い伝えられていますから当然アピールは暖かく受け入れられ、皆で協力して互助を推進させましよう確認しているのですが…。残念です。ここ何年も、7教会がそろって献金を献げたという実績がないのです。「なしてこげなると？」

「めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい(マタイ2:4)」
そうしない理由は何もありません。「心配しとらしたんなら、わかつとらすならせんば!本気出さんなら!」互助献金発祥の地、筑後から発信します。



「いっしょにがんばらんなら!」

伝道費援助金も 用いさせていただきます

宮田教会 牧村元太郎

私も宮田教会は、昨年10月20日に、特別伝道礼拝を行いました。チラシを作る費用のために教区互助の伝道費援助金から援助を頂いて、教会の乏しい会計からの支出をおさえることができて、助かりました。感謝です。

宮田教会としては、こういうことをするのは、20年かそれ以上ぶりではないかと思えます。

昨年度末、次年度の計画を立てる役員会で一人の役員が、ひょいと「牧村牧師を講師にして伝道集会をやったら」と軽く言ったのに、わたしが乗ったのです。もともと宮田教会に来るとき、私が思っていたことは、それまで学校で、学校教育という制度の枠にはめられて、まったくキリスト教を知らない学生と、福音(「神の国が来た」というメッセージ)を分かち合っていてきましたから、同じことを今度は自由に、町の人々とすることがで

きたら、ということでした。だから、教会員のみなさんとそういう働きを展開できるようになるまでは、いわば助走期間と位置づけてきました。しかし、4年宮田にいるとだんだん地域の人にも知り合いができ、特にわたしが町の合唱団に入って、合唱団が教会を練習場にするようになってからは、教会に親しみを持つ人も増えてきたので、伝道集会をするのにいいチャンスだと思ったのです。

教区からいただいた援助で、アート紙に印刷された美しいチラシを版下持ち込みで、1000枚業者に作ってもらい、教会に関係のある地域の人々には郵送し、あとは、ある日の聖日礼拝後、礼拝に出席していた教会員全員で、手分けして、あちらこちらの家々にポストインして配りました。教会員にとっても初めての経験だったかと思えます。チラシ配りも、伝道のためと思えば、みんなですると楽しいものです。

礼拝順序も聖書箇所も讃美歌も(特別の小冊子を作りました)、むろんメッセージも工夫をして、

初めての方々に親しみやすくわかりやすいものとして準備し、当日朝祈って来会者を待っていたら、普段の礼拝出席者のほかに、教会員の家族が久しぶりに来られ、3人の方が、新しくおいでくださいました。その一人は、合唱団でおつきあひしている宮田の人、後の方は、教会員が誘ってきた山口

県の人、もう一人は、飯塚にお住いのわたしの知り合いでした。宮田の人は、また礼拝に来たいと言ってくれています。

やってよかったと思っています。神さまに感謝です。援助を下された九州教区の皆様ありがとうございました。

もらってうれしね

とある教会から講壇用聖書（新共同訳）をお譲りいただけるという申し出をいただきました。奥ゆかしいことで、教会名は公表しないでいいとのことですが、決してあやしい素性ではありません。新品ですと10数万円もする代物です。ただし一部水に濡れたため、めくりにくい部分があるようですが、大きな支障はありません。教会員から新しいものが献品されたため、余ってしまったとのこと。



講壇用の聖書をお入り用の教会がありましたら、教区事務所までお知らせください。教会協力委員会がお取り次ぎいたします。

※「探してます」「譲ります」の情報が他にもありましたら委員会までお寄せください。

互助献金中間報告（2014年1月末現在）とさらなるお願い

2013年度も残りわずかとなりました。互助献金もラストスパートに入ります。そこでこれまでの献金額を報告し、**最後の奮起**をお願いしたいと思います。**1100万円**の目標に対して現在**612万円**！昨年同期を上回っているものの、昨年は1000万円未達に終わったことを考えると、もうひとがんばりが必要です。

特に**すべての教師が収入の1%を目標に献げる**ことを教区総会で決めて取り組んできた「**教師互助献金**」。是非すべての教師が参加されるようにと願っています。範を示すためにもお願いします。教会からの互助献金と教師互助献金をまとめて送金しておられる場合は、送金の際、教師互助献金も含まれている旨とその金額を事務所にお伝えください。教師互助献金が献げられますと、教区総会議案報告書の教会毎の互助献金報告に※印がつきます。これをざらっと並べましょうよ。

2014年1月末現在

教会互助献金	6,120,380円	（67教会、教師42名）
教会緊急援助献金	64,500円	

昨年同期

教会互助献金	4,820,275円	（58教会、教師36名）
教会緊急援助献金	77,000円	